

# 0-6才ことばの育ち

~育ちの順序を支援に生かす~

こども言語相談室cotocoto

言語聴覚士西野章子

# こども言語相談室cotocoto

子どもが自分の力を  
のびのびと出し切って  
人生を味わい尽くすために



子どもと「ことば」を繋ごう

ことこと煮込んだ

スープのように

あたたかく味わい深い

ストーリーを応援しよう

# 自己紹介



- **西野章子** 言語聴覚士(国家資格)
- 総合病院にて20年間小児から成人の言語訓練・嚥下訓練を実施
- 言語発達相談・健診・療育支援に従事
- 長崎リハビリテーション学院非常勤講師
- 放課後等デイ・こども園 スーパーバイザー
- 
- 2021年 こども言語相談室cotocoto開業
- 専門は小児の言語発達全般・構音指導・摂食指導・吃音・学習支援

法人業務契約

行政委託

講師

子育て支援  
センター

ことばの教室

オンライン  
相談



## はじめに

『言葉が出ない・遅い』『うまく言葉を使えていない…。』

そのようなお子さんに

私たちができることとは一体何でしょうか？

特別な教材やセラピーが必ずしも必要というわけではありません。

普段の「ふつう」の関わりの中で、私たち大人は  
どのような視点を持ち育ちを見つけていけばいいのか  
どのように支援していけばいいのか。

育ちの順番を学び、紐解く中で  
その答えを見つけていきたいと思えます。



# 0~12カ月



## 人との関わり

- 新生児は対人的志向性を持って生まれる
- 経験を通して対人的関わりの基礎が築かれていく
- ⇒優しく語りかけながら撫でられたり揺らされたり、満腹な時に穏やかな表情を見せる



## 人との関わり方の変化

- 3ヵ月頃：
  - 口を開けた、より大きな社会的微笑（对人的微笑）
  - よりやりとりが続く
  - 声が重なりあう
- 4ヵ月頃：
  - 大人との声の重なりは少なくなってくる
  - ⇒ターンテイキングの芽生え



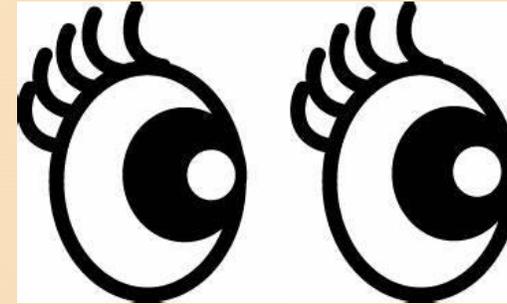
# 感情の理解

- 円滑なコミュニケーションには相手の表情や心情を洞察するスキルが必要
- 3ヵ月の乳児は笑顔を注視する  
(笑顔で快・怒り顔で不快になる)

1歳頃  
他者の表情から  
安全かどうかを  
察せるようになる  
(社会的参照)

# 共同注意

- 生後半年：
  - 対面する相手が右を見れば右、左を見れば左の方向
- 9カ月前後：
  - 相手の顔や視線の方向、指差しを手掛かり
  - その人が注意を向けている事物に自分も注目するようになる
- 1歳代：
  - 他者の指差しに従う
  - 自分のうしろの少し離れたところを振り返ってみる共同注視ができるようになる



# 共同注意と言語発達

共同注意は語彙獲得に重要！

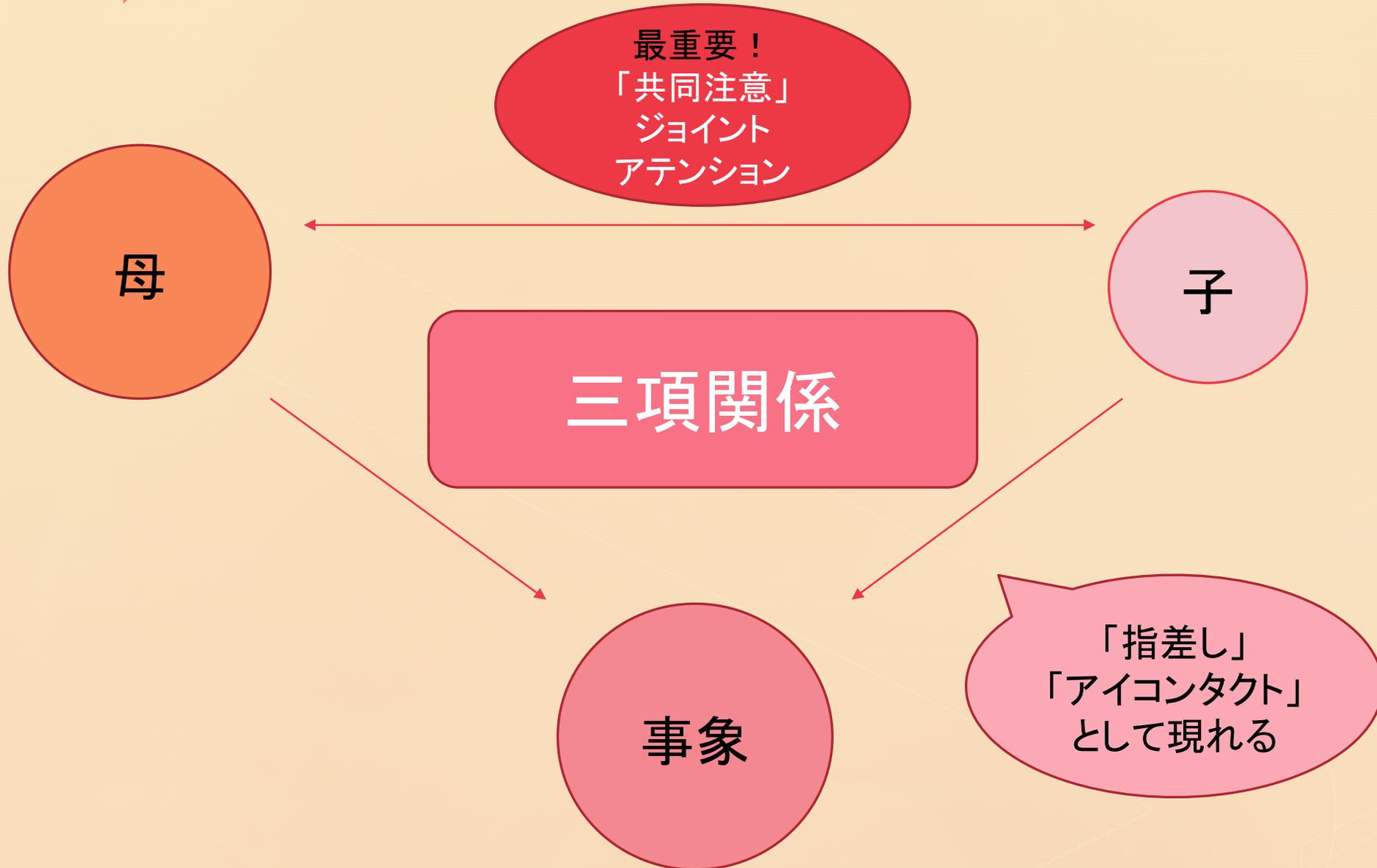
同じ方を見ることができると言葉の獲得につながる



⇒0歳代後半、親の顔と視線の方向を頼りに目標物を見ることが  
できる

⇒他者の視線の方向への追従が見られる子どもほど後の理解語彙  
や表出語彙が豊か

## 三項関係



## 三項関係を強くするもの

共感する力



## 指差しの種類

- 自発の指差し(11か月頃)  
自分が見つけたものを指す:「(なにこれ)」
- 要求の指差し(1歳頃)  
欲しいものを指す:「とって！」
- 共感の指差し(1歳過ぎ)  
見て!の思いを込めて指す:「ほら！」
- 応答の指差し(1歳半頃)  
○はどこ?で指す:「○ならこれだよ」

# 聴覚情報・視覚情報の連合

聴覚的情報と視覚情報との連合が言語モデルとなる

聞こえてきた言葉(音)と、見えたものが繋がることで言葉のモデルを学ぶ

⇒どのような場面や意図でどのような発話を用いたらいいかを学ぶ

(空気の読み方などにも関わってくる)

- 慣用句などの理解にも通じる
- 例) 年齢のサバを読む 目と鼻の先

## 模倣の発達

- 8カ月～12か月頃 手の模倣ができるようになる
  - 1歳ごろにかけて直接的な模倣ができるようになる
  - ⇒身振（動作による意図の伝達）に繋がる
- 
- 1歳半以降、大人の模倣だけでなく子ども同士の関わりの中でお互いの動きを真似ることが多くなる



# 模倣ができるということの意味

- ①対人的志向性
  - ⇒コミュニケーションの育ち
- ②イメージの芽生え
  - ⇒知的な育ち

育ちの見立ての  
ヒント！

まねっこしてる？  
よく観察してみよう

## 0~12カ月児の絵本と遊び

まなざしを  
意識しながら

模倣しやすい  
もの（身近な  
もの）

視線が  
追いつく絵  
（聞こえた音  
と見ているも  
のが一致す  
る）

音を心地よく  
感じさせる  
（音を聞き分  
ける力を育て  
る）



## 前言語期～単語ポツリ期

- オノマトペ
- 文章は1文か2文
- イラストがシンプル  
⇒一枚の紙の中に、一つ二つの絵

シンプルさがカギ

- ・ちゃんと見れる
- ・全体像を掴める

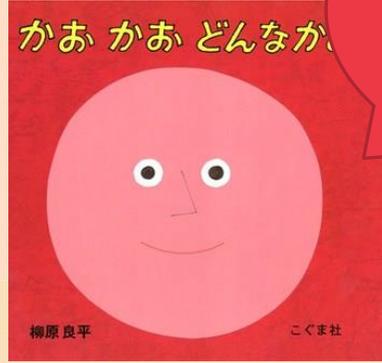
言語発達を促進する



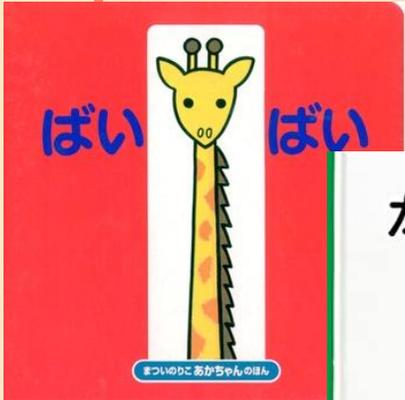
ストーリーがなくてもOK  
絵と音を楽しむ



おすわりの頃は  
ビフォーアフター  
の変化を楽しめる



動けるようになったら、話が少し進んでいくようなものもOK



愛着  
直接模倣を  
育てられる





いないいないばあ  
モノの永続性  
アイコンタクト



ふれあい遊び  
多感覚入力  
音を聞く  
ターンテイキング



はらばい遊び  
腕・肩・首・体幹  
視線の安定



クーゲルバーン  
手段・目的関係  
視線を動かす



# 1~2歳児





Ri/ n/go

## 象徴機能

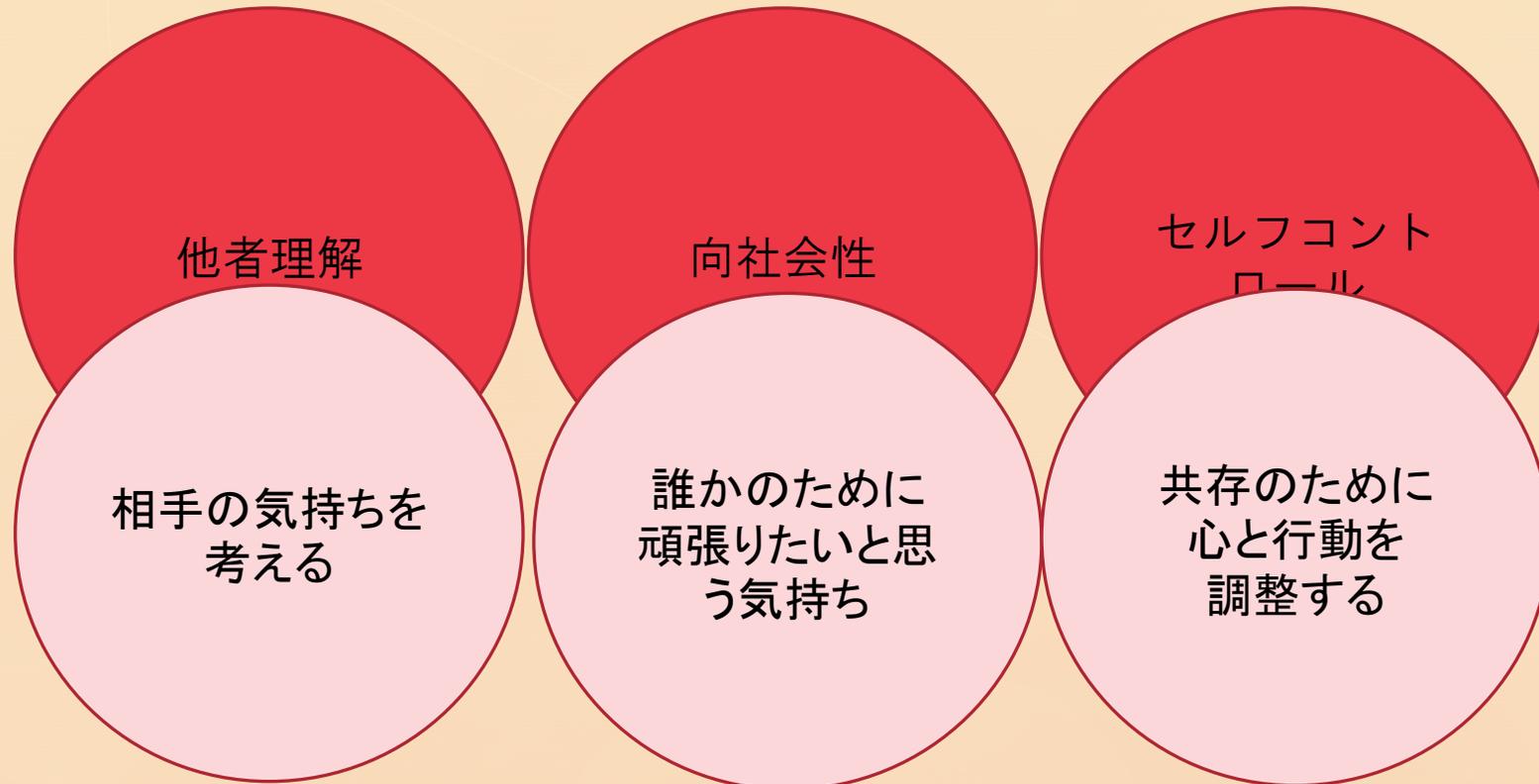
- 象徴機能：あるものを別のものに置き換えて表現する力
- 話し言葉も象徴機能に基づいている
- 見立て遊びをする時期が早い子供ほど有意味語の出現が早い

# 象徴機能の育ち

- ・ 第1段階(0～1歳)
- 事物はそのままの形で、子どもの身体運動遊びの対象となる。
- 例) 入っていないコップを飲むふり 絵本の食べ物を「あーん」
  
- ・ 第2段階(2～3歳)
- 事物は別の事物の象徴となる。子どもの関心は象徴されているものや行為活動に注がれる
- 例) 枕が人形になる

# 社会性の発達

- 社会性: 集団でくらししていくために重要なスキル



# 社会性の発達

社会と繋がっている  
誰かの役に立っている

自己実現に繋がる

考える

サポート

調整する



## 感情の理解

2歳までは笑顔だけでなく驚きも「うれしい」  
困ったも「かなしい」

2歳前半  
「うれしい(ニコニコ)」  
「かなしい(エンエン)」が分かる

## 向社会性の発達

- 三項関係（ほら見て！の指差し）が成立するようになると大人が何を意図しながらモノを扱っているのか理解し始める
- ⇒ 目的-手段関係の発達につながる
- 大人と自分との関わりや、大人同士のやり取りを見る中で相手の情動を理解することができる
- ⇒ 向社会性の発達
- 例）泣きまねをするとヨシヨシして慰めてくれる
- おやつを食べさせて喜ばせてくれる

# 1~2歳児の絵本選びと読み方

象徴機能  
身振りで模倣  
ができる

手段-目的関係  
日常生活が扱  
われている

向社会性  
表情と気持ち  
が一致してい  
る

安全基地  
愛着  
スキンシップが  
とられている

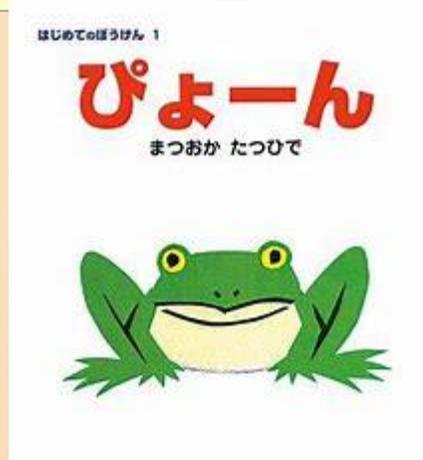
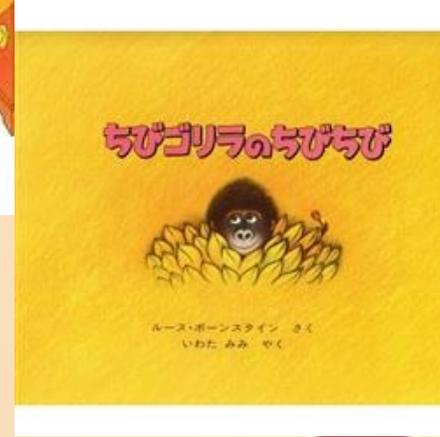




模倣  
象徴機能



向社会性  
安全基地



手段-目的関係  
象徴機能



# 1~2歳児の遊び

象徴機能  
身振りで模倣  
ができる



手段-目的関係  
日常生活が扱  
われている



向社会性  
表情と気持ち  
が一致してい  
る

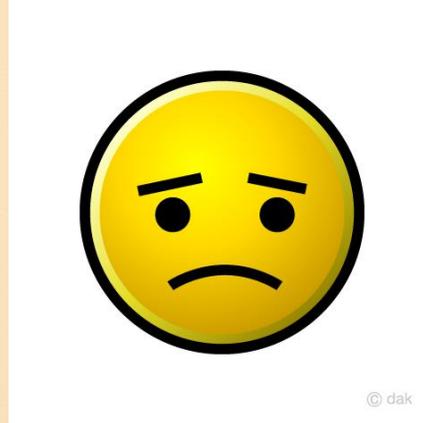
安全基地  
愛着  
スキンシップが  
とられている



## 2~3歳児



# 感情の理解



2歳までは笑顔だけでなく驚きも「うれしい」  
困ったも「かなしい」

2歳前半  
「うれしい(ニコニコ)」  
「かなしい(エンエン)」が分かる

2歳後半~3歳前半  
「うれしい」「かなしい」  
「こまった」「びっくり」  
が分かる

## 感情の理解の育ち

- 単に読み取りだけでなく、出来事とそれに伴う感情との結びつきができる
- 例)
  - かけっこで負けた人の気持ち
  - 頑張ったのに失敗した人の気持ち



## 対人ルール・自己統制

- どっちがいい？
- 速い方が勝ちね
- 負けないように頑張る
- 負けたら悔しいね
- 仲間と力を合わせよう

2歳代：  
うまくできた！←褒められる  
ことを期待する

~3歳：  
人より先に終わることで満足  
する(勝ちたい！)

# 状況理解

- 3歳:
  - ある出来事を描いた絵を見て次を予測する
  - 例) 落ちそうな場所にいる子が手を伸ばしている⇒落ちちゃうよ
- 4歳: 複数の人がいる状態の出来事を見て次を判断する
  - 例) おもちゃを独り占めしている子どもとその周りにいる子ども⇒周りの子は悲しい顔になるよ

## 2~3歳児の絵本選びと読み方

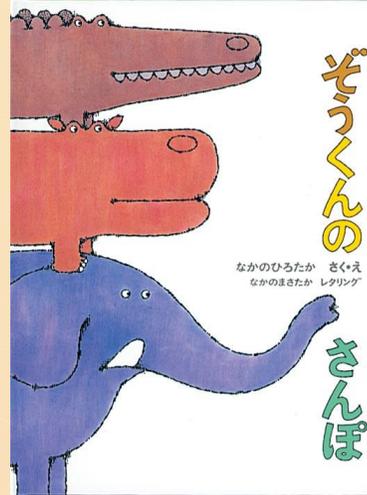
感情の育ち  
少し複雑な感情の理解  
状況と感情の結びつき

ルール理解  
協力する  
速く終わることが成功  
失敗を悲しむ

状況理解  
1つの出来事の少し先を予測できる

語彙の拡大  
疑問詞の理解  
語彙の拡大  
(形容詞・動詞)



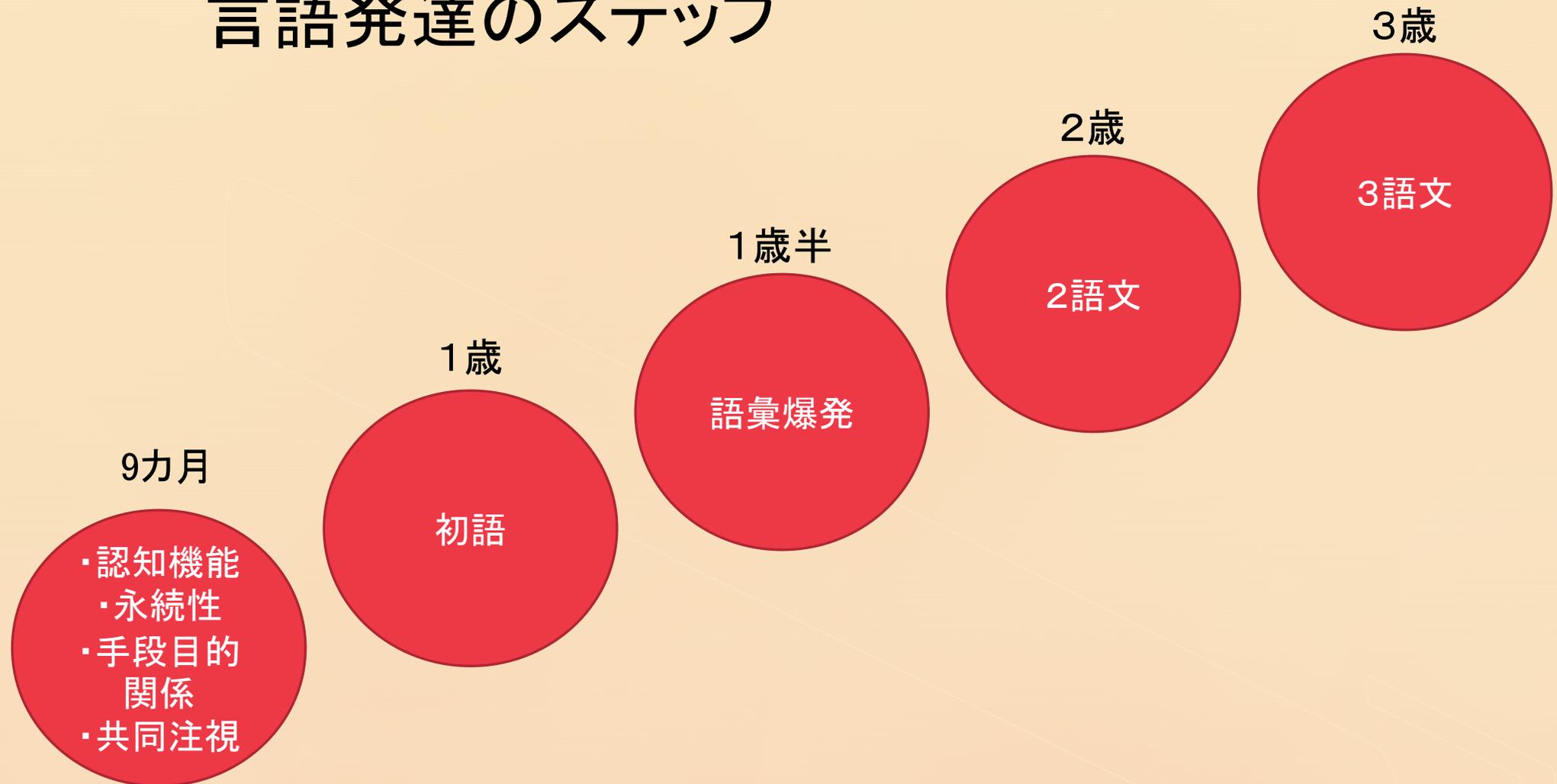


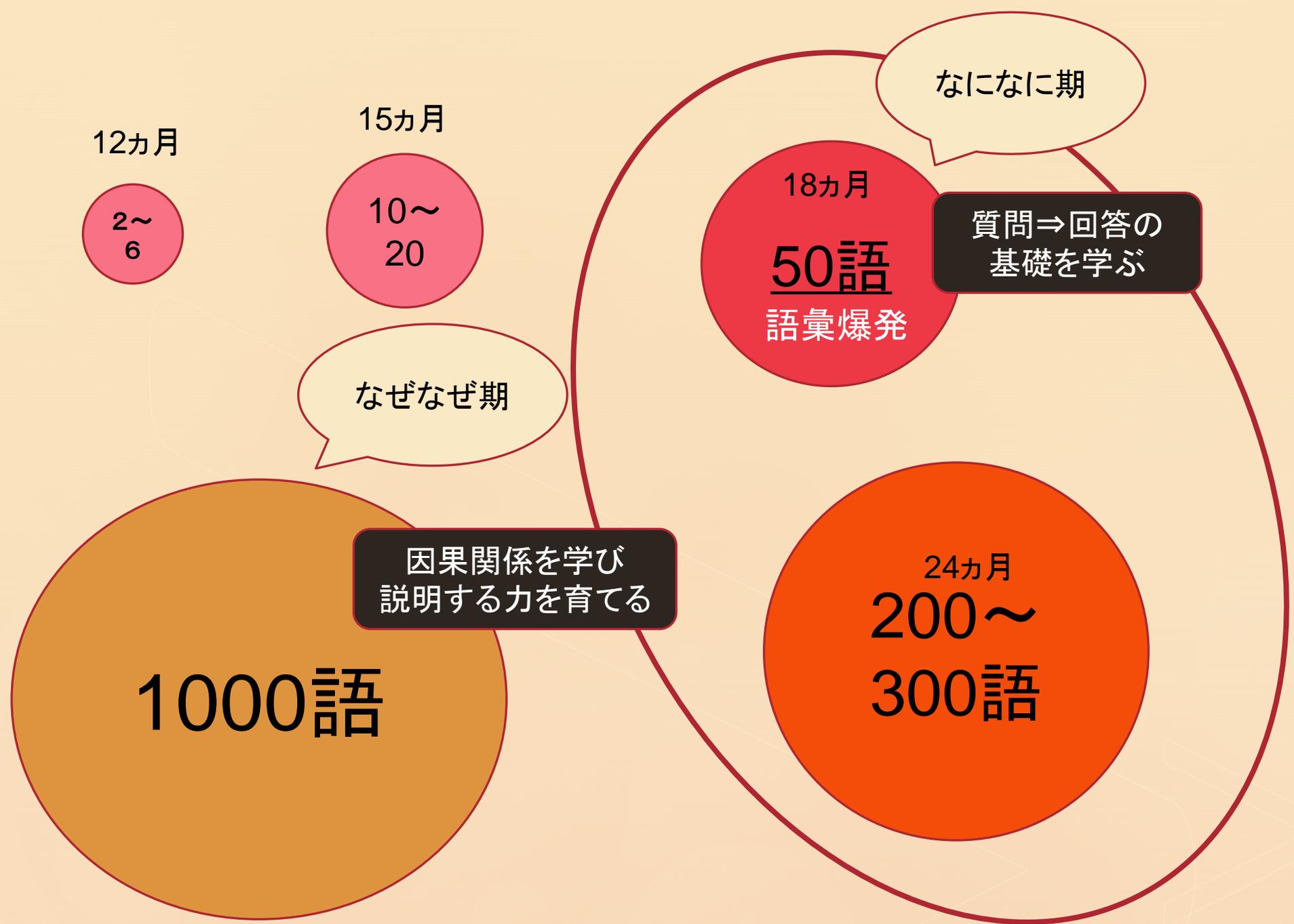
しっぽとり  
風船運び

～したら～  
の構文を使う

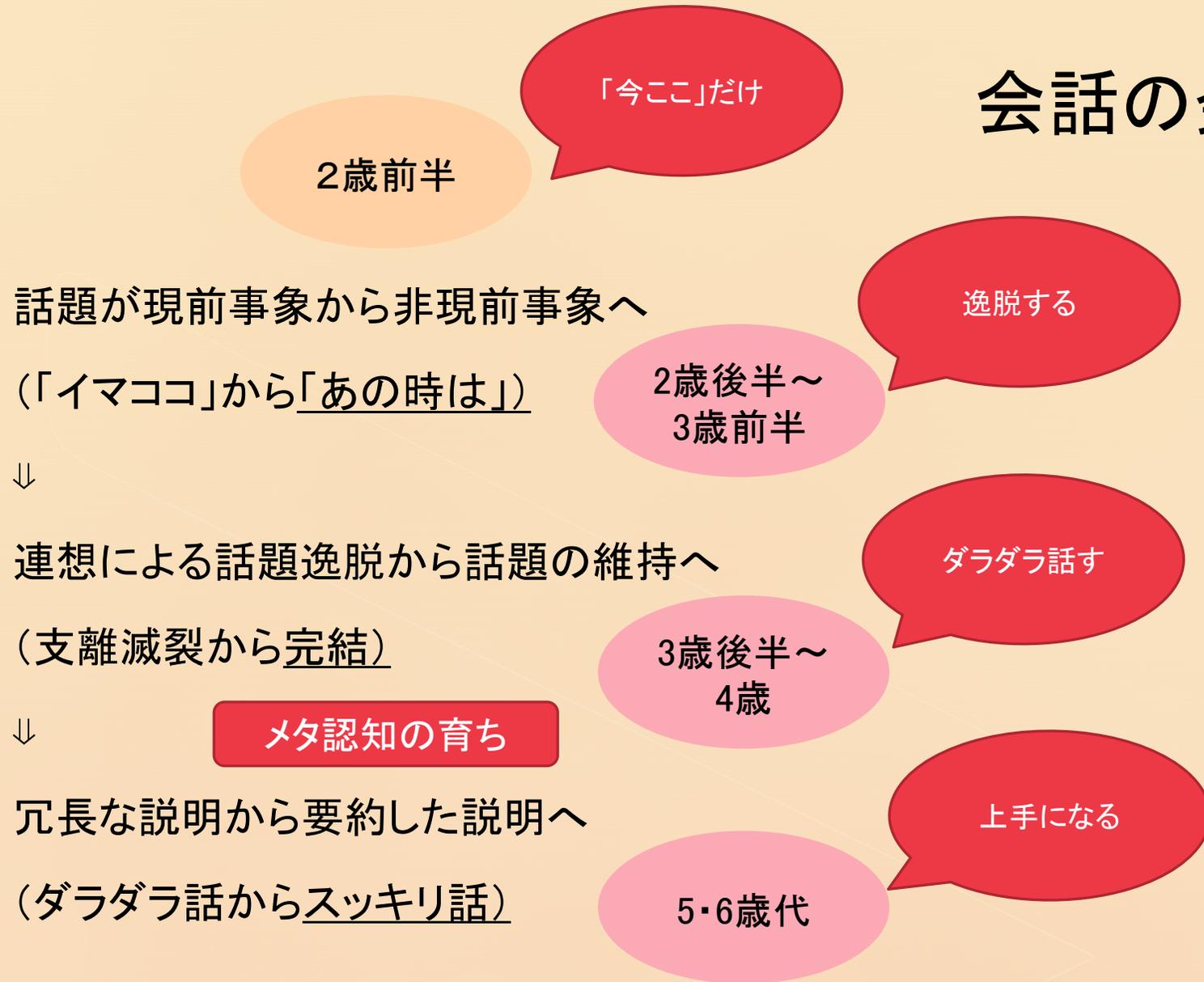
お手伝い  
ジェスチャー  
なしでの言語  
指示 (評価)

# 言語発達ステップ





# 会話の発達



# 疑問詞の育ち

1歳半～2歳:なに?どっち?

2歳前半～中頃:だれ?どこ?

3歳前後:どうやって?

3歳～4歳:なぜ?どうして?



単独遊び



並行遊び



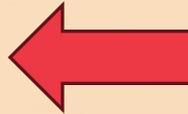
# 遊びの変化



連合遊び



協調遊び



## 4・5歳と5・6歳の違い

### 4・5歳は、競争の時代

- 勝ち負け・速さ・順位への意識が高まる



### 5・6歳は、道徳の時代

- 正義にあこがれる
- 正しい人が好き・悪い人は嫌い
- 表情と感情の違いに気づく
- 子ども同士の結びつきが強まる
- けんかが増えるがことばでの言い争いが多くなる



## 5・6歳(言語面)

- 構音が完成
- 助詞の正確な表現と理解が進む
- 話の道筋を分かるように話すようになる
- 立場や状況を変えた仮定の状況を尋ねられて答えられる
- 集団の中の一員として聞き、集団に向かって話すことができる
- ごっこ遊びで役割を理解し立場に応じてことばを使い分ける
- 相手の立場や理解の状況を意識し相手に分かりやすいように話し方を変えることができる

## 5・6歳(社会性)

- 相手のことを考えて、行動調整できるようになる
- なりきるのでなく演じるようになる
- ごっこ遊びで役割を理解して、立場に応じてことばを調整するようになる
- 小グループで話し合うことができるようになる
- 特定の子たちと遊ぶ姿が見られるようになる
- 相手の立場や理解の状況を意識して相手に分かりやすいように言い方を変えることができる

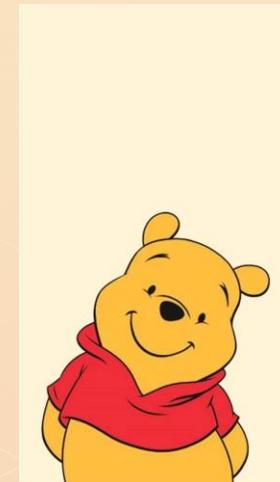
## 発達の階段を一段ずつ上げる

- 「今できていること」を見つける
- 次に、「今はまだ難しいこと」を見つける
- できることと、できないことの間にあるものをみつけて梯子をかけよう



## 6つになった AAミルン

1つときは  
なにもかも はじめてだった。  
2つときは  
ぼくはまるっきりしんまいだった。  
3つとき  
ぼくはやっとぼくになった。  
4つとき  
ぼくはおおきくなりたかった。  
5つとき  
なにからなにまでおもしろかった。  
今は6つで  
ぼくはありったけおりこうです。  
だから いつまでも  
6つでいたいと ぼくはおもいます。



## おわりに

言葉の育ちに必要なことは、必ずしも「言語刺激」ではありません。

大切なのは

「相手に伝えたい」「相手の思いを受け止めたい」という思い。

なぜなら、ことばはコミュニケーションのツールだからです。

〈まなざし、瞳の奥の輝き〉

発達の順序を支援に生かし

この子は「いまどこ?」「つぎどこ?」をみつけるヒントは

そこにあるように思います。

## 参考文献

- 大伴潔・林安紀子・橋本創一,2021, 言語・コミュニケーション発達の理解と支援, 学苑社.
- 中川信子.1998,健診とことばの相談,ぶどう社.
- 大伴潔・安紀子・橋本壯一.2020,アセスメントにもとづく学齢期の言語発達支援,学苑社.
- 小寺富子.1998,言語発達遅滞の言語治療,診断と治療社.